

グローバル 3PL 戦略の価値を向上

グローバルサプライヤーからのインバウンド
輸送に複数の 3PL 戦略を利用した場合の
実績を向上させる

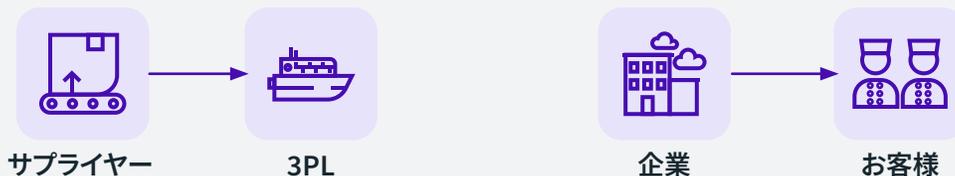


課題

製造業者はインバウンドサプライチェーンに対する可視性やコントロールの多くの側面を失っています。世界規模のサプライチェーンの流れには、複数の地域、国境、輸送手段をまたいでオーケストレーションされた輸送が必要です。サードパーティ物流プロバイダ (3PL) や国際貨物輸送業者は、現地の輸送実行スタッフ、地域への精通度や専門知識、多様な支援サービス (発送元での注文の統合、一時的な倉庫保管、輸送の予約、入札と実行、税関手続きの円滑化など) を提供して、こうした複雑さの管理をサポートしてくれます。

インバウンドサプライチェーンが複数の 3PL や国際貨物輸送業者に外部委託されている場合、輸送サービスのコストやパフォーマンスを見積もり、コントロールし、最適化することは困難です。

サイロ化されたデータシステムに起因する情報の損失



3PL が独自のシステムを運用している場合、インバウンド輸送を追跡するための一化された情報源が存在しません。

グローバル 3PL は、担当する地域や輸送手段を独自のテクノロジープラットフォームで管理する傾向にあり、多くの場合、そのコントロールタワーは他から独立しています。そのため、お客様向けにすべての業務のモニタリングを一元管理することを目的として作られたシステムは、製造業者の出荷の一部のみに可視性が限定され、他の 3PL によって管理されている出荷を把握できません。

一元化されたプラットフォームがないことによる影響

複数の 3PL システムを利用している製造業者は、外部委託した業務に対するコントロールを大幅に失っています。すべてのサービスプロバイダの情報を一元化して標準化するクラウドプラットフォームがないと、地域や輸送手段ごとに形式や基準が異なる個別のシステムで輸送情報を収集せざるを得ません。

この場合、インバウンド業務についての信頼できる唯一の情報源が存在しません。3PL を切り替えてサプライチェーンの可視性を拡大することに伴うコストや中断を考えると、製造業者は、新規の 3PL を新たに採用する手間を回避するために、利益率の低下、出荷の紛失や遅延、手作業での照合を容認する道を選ぶかもしれません。

製造業者がコントロールを失うと、次のような問題が生じます。

- 運送業者による出荷の見落とし
- 間違いのない出荷を保証するための手作業によるルールチェック
- プロセス全体に対する可視性とコントロールの欠如
- 特定のプロバイダに「ロックイン」することによるサービスレベルの低下

問題の本質

各 3PL が独自のシステムを使用しているため、製造業者には通常、各パートナーからの出荷指示や出荷計画、予約、積荷計画、ASN などのイベントに関するデータを 1 つにまとめる場所がありません。



独自の 3PL システム

製造業者が物流を 3PL に外部委託する場合、複数のシステムで作業する必要があります。各システムには異なるプロセスが必要となり、パフォーマンスのモニタリングに使用される KPI (重要業績評価指標) も異なるため、次のような問題が生じます。

- インバウンド物資輸送に関する一貫したプロセスと情報の欠如
- サプライヤーによる 1 社または複数の 3PL への予約のコンプライアンス違反
- 過去または現在の業務に対する監査証跡の自動化および信頼性の欠如



3PL へのロックイン

製造業者は 3PL の選択にかなりの労力を注ぎ込んでいます。既存の ERP システムにソフトウェアを統合し、従業員にその使い方を習得させなければならないため、次のような問題が生じます。

- 新規の 3PL への切り替えにかかる高いコストと、それに続く選択したシステムへの「ロックイン」



サプライチェーンをコントロールできるプラットフォームの欠如

輸送管理のためのクラウドベースのシステムがないと、企業はサプライチェーンの業務に対する可視性を持たず、結果的に次のような問題が生じます。

- サプライチェーンに対するコントロールレベルの低さと、サプライチェーン業務を管理するための煩雑な手作業処理

ソリューション

製造業者は、契約する 3PL ごとに個別のシステムを使用せざるを得ない場合、単一プラットフォームを使用しインバウンドおよびアウトバウンドの物資を管理することはできません。しかし、企業が重要な輸送業務を外部委託し、さらに単一の記録システムを維持できる選択肢があります。

クラウドベースのグローバル輸送プラットフォームを利用すれば、3PL パートナー、サプライヤー、運送業者、買主はそれぞれ 1 つのネットワーク上で連携できます。製造業者は、世界中のサプライヤーから購入し、さまざまな輸送手段で出荷を予約し、統合されたデータに基づいてサプライチェーンにおける意思決定を下すことができます。マネージャーが別の 3PL への切り替えが必要だと判断した場合、苦もなく処理することができます。

サプライヤー間および 3PL 間共通の中立的な予約プラットフォームに接続してインバウンドの流れを管理すると、企業は次のことができるようになります。

- | | |
|--|---|
| <p>1 サプライヤーポータルを通じて予約から ASN 作成までのプロセスを管理</p> | <p>3 物流ワークベンチを使用して輸送の統合とルート決定を向上</p> |
| <p>2 サプライヤーの出荷からお客様への納入まで、エンドツーエンドの可視性を確保</p> | <p>4 バックエンドシステムに関係なくパートナー 3PL 全体で連携し、より適切に意思決定</p> |

グローバル輸送プラットフォームを利用すると、次のようなメリットがあります。

- 時間通りの出荷および納入と「時間通りの業務終了」を確実に実現
- サプライヤー、パートナー、運送業者が輸送情報を管理できるように、信頼できる唯一の情報源を提供
- 割り当てとルート計画を確実に守ることで、予想を上回る輸送コストを回避



価値の提案

グローバル輸送の単一プラットフォームの価値はネットワークの力にあります。独自の 3PL システムはすべてクラウドベースのプラットフォーム上で統合され、それによりプロセスがすべて自動化され、不要なコストが排除されます。製造業者は、明確で高品質なインバウンドサプライチェーンの状況に基づいて輸送計画を策定でき、次のことができるようになります。

1

分散したワークフローではなく、すべてのサプライヤーおよびすべての 3PL の間でプロセスを連携

- 自動化できるプロセスを標準化

2

可能な限り少ない輸送コストで最適な製品の流れを確保

- サプライヤー間/3PL 間共通の出荷計画プラットフォームを使用
- 必要に応じて 3PL を変更し、単一のプロバイダに縛られないようにする

3

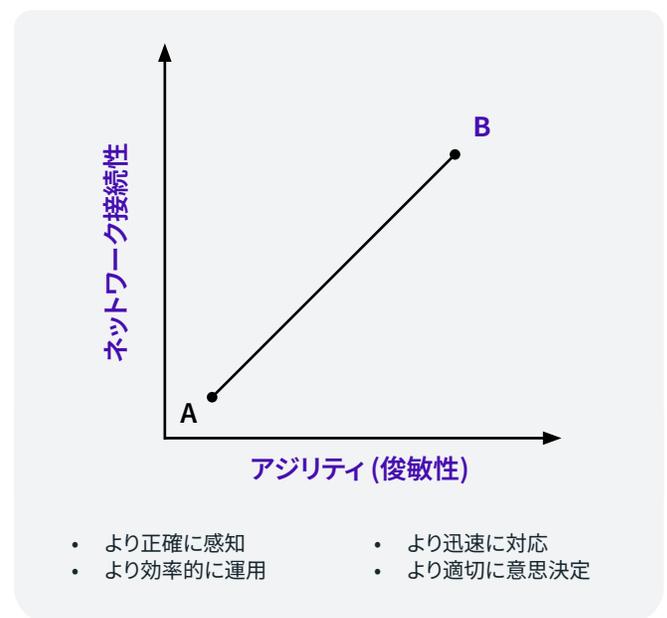
不必要な急送を削減

- 高度な可視性とパイプラインのインサイトを通じて、提案された高コストの輸送計画を調整する

サプライヤーの輸送のコントロールと、企業のネットワーク化

単一プラットフォームからのインバウンド供給のメリットを得るには、企業はサイロベースの内向きの運営者から、相互に連携したアジリティ (俊敏性) の高いビジネスネットワークオーケストレーターへと自社を変革する必要があります。

ネットワーク化されたデジタルサプライチェーンへの移行



インフォアについて

インフォアは、業界に特化した市場における企業向けビジネスクラウドソフトウェア製品のグローバルリーダーです。充実した業界スイートをクラウド内に構築し、ユーザーエクスペリエンスを第一に考え、データサイエンスを活用して、既存システムに簡単に統合できるテクノロジーを効率的に展開しています。世界の 67,000 社を超える組織がインフォア製品を利用して、市場の混乱を克服し、ビジネス全体でデジタル変革を実現しています。

[infor.com](https://www.infor.com)

グローバル 3PL ネットワーク全体でパフォーマンスを強化

[詳しくはこちら](#)